

がん検診

要予約



【持ち物】 20～39歳の女性：子宮がん検診受診券（ハガキ）、受診料金
40～74歳：がん検診等受診券（ハガキ）、受診料金
75歳以上：受診料金

【注 意】 インスリンポンプ・持続グルコース測定器は磁気の影響を受ける可能性があります。検査前に必ず取り外しをお願いいたします。

| 種類 | 対象者 (年度年齢) | 国が推奨 する 受診間隔 | 受診 料金 | 検査内容 | 注意事項 |
|---------------|--------------------------------------|--------------------|------------|---|---|
| 肺がん検診 | 40歳以上 | 年に1回 | 100円 | 胸部レントゲン検査 | 65歳以上の方は肺がん検診と併せて結核検診も行います。 (1枚のフィルムで両方調べます) 妊娠中またはその疑いのある方は受診できません。 ペースメーカー等を埋めている方や手術等外科的治療を受けたことがある方は、予約前に主治医に確認してください。 ※令和8年度から喀痰検査(肺がん検診のうち、重度喫煙者で希望者に実施)は、終了となりました。咳や痰が続く、血の混じった痰が出る場合は、早めに医療機関を受診してください。 |
| 胃バリウム検査 | 40歳以上 (胃ペプシノゲン 検査が陽性の方を 除く) | 年に1回 | 800円 | バリウムを飲んで行う 胃のレントゲン検査 | 検査前日の夜9時以降検査終了まで絶飲絶食し、タバコやガム等も控えてください。(検査2時間前までならコップ1杯程度の水(約200ml以内)は可。) 【糖尿病で治療中の方】 検査当日の朝、糖尿病の薬は飲まないでください。インスリンの注射はしないでください。薬の服用やインスリン注射に関しては、事前に主治医へ十分ご相談ください。 【糖尿病以外の薬を飲まれている方】 主治医から処方されている薬(糖尿病の薬以外)は、コップ1杯程度の水で服用してください。 |
| 大腸がん検診 | 40歳以上 | 年に1回 | 400円 | 便潜血反応検査 (2日法) | 生理中や胃バリウム検査後少なくとも1週間は採便しないでください。容器の発行は12月24日まで、提出は12月28日までです。 【集団健診で受ける場合】 健診会場で容器を発行します。(2日分の便を採り、指定された場所に提出してください。) 【医療機関で受ける場合】 希望する医療機関で容器を発行します。 (2日分の便を採り、) 検診容器を受け取った医療機関へ提出してください。 |
| 子宮がん検診 | 20歳以上の女性 | 2年に1回 | 800円 | 子宮入口(頸部)の 細胞診 | 集団健診のほか、指定医療機関で受けられます。 (指定医療機関は、羽咋市ホームページをご確認ください。) 生理中、妊娠中またはその疑いのある方は受診できません。 子宮全摘した方、性交未経験の方は医療機関 健診を受けてください。 |
| 乳がん検診 | 40歳以上の女性 | 2年に1回 | 700円 | 40歳代マンモグラフィ (2方向) 50歳以上マンモグラフィ (1方向) | 集団健診のほか、指定医療機関で受けられます。 (指定医療機関は、羽咋市ホームページをご 確認ください。) 【以下に該当する方は受診できません。】 妊娠中またはその疑いのある方、脳室-腹腔シャントチューブが入っている方、胸部にペースメーカー等を埋めている方、美容豊胸手術を受けた方、授乳中または断乳後6か月以内の方 |
| 肝炎ウイルス 検査 | 40・50・60・70歳 | | 無料 | B型肝炎ウイルス検査 C型肝炎ウイルス検査 (血液検査) | 過去に検査を受けた方、現在治療中の方は対象外です。 |
| 胃ペプシノゲン 検査 | 40・45・50・55・ 60・65・70歳 | | 200円 | 血中ペプシノゲン検査 (血液検査) | 過去に陽性になった方は対象外です。 開腹・腹腔鏡手術による胃切除をした方は対象外です。 |
| 前立腺がん検診 | 50・55・60・65・ 70歳の男性 | | 500円 | 前立腺特異抗原検査 (血液検査) | 市内の医療機関で受けられます。 |
| 歯周病検診 | 16～76歳 | | 1000円 ※ | むし歯と歯周病の検診 | 市内の歯科医院で受けられます。 (詳細は、羽咋市ホームページをご確認ください。) 歯科治療中の方は受ける必要はありません。 ※20・30・40・50・60・70歳の方は無料で受診できます。 ※76歳の方は500円で受診できます。 |

胃バリウム検査について

- ★便秘症の方はバリウム検査後に便の排出が遅れることで腸閉塞や腸穿孔など重篤な合併症の恐れがあるため、胃バリウム検査はお勧めできません。
- ★また、寝返り回転が困難な方・意思疎通が困難な方・日常的に食物や飲み物が飲み込みにくく、むせやすい傾向にある方は、集団健診での胃バリウム検査では安全性・精度面でリスク(危険性)が有益性を上回る可能性が高いため、受けることができません。
- ★胃バリウム検査による合併症および事故予防のために、下記に該当する方は胃バリウム検査を受けることができません。
 - ・バリウム、センノシド製剤(下剤)に対しアレルギー(過敏性)がある。
 - ・透析中、慢性腎疾患、心疾患で水分制限がある。
 - ・腸閉塞、イレウスの既往がある。
 - ・検査前夜9時以降に飲食した。
 - ・現在、妊娠中またはその可能性がある。
 - ・慢性呼吸器疾患で在宅酸素療法中、脳圧亢進でシャント中である。
 - ・現在、消化管系の炎症性疾患・潰瘍性疾患の治療をしている。(逆流性食道炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、胃・十二指腸潰瘍、虫垂炎、憩室炎など)
 - ・人工肛門造設中、1年以内にお腹の手術(消化管系以外でも)をした。
 - ・検査当日を含み、3日以上(本日含み)便秘が続いている。
 - ・検診当日、糖尿病の薬を服薬、又はインシュリン注射をしてきた。